

がんによる神経障害の病態生理の解析とそれに基づく新たな疼痛治療薬の探索

研究概要

研究の背景と意義

がんの痛みは、体性痛(骨や関節、筋肉などの痛み)、内臓の痛み、神経障害性痛に分類されます。このうち神経障害性痛は、腫瘍が脊髄や末梢神経へ圧迫・浸潤したことにより生じる痛みであり、この痛みはモルヒネなどの既存の鎮痛薬が効きにくいことが知られています。進行がん患者さんの約 10-30 % に、このようなモルヒネが効きにくい痛みが出現することが知られていますが、こういった痛みの治療法は未だ確立されていません。がん患者さんの QOL 向上のために早急に取り組む必要があります。

一般に末梢神経は、損傷後、神経再生し機能再建を行います。私達は、この神経の損傷/再生および痛みの分子基盤と、がんの進展に関与する分子基盤が一重複することを見出しております。したがって、がんによる神経障害の病態生理に基づくこれら分子をターゲットとした治療は、痛みの難治化を軽減するとともに、更なるがんの進展を抑制する可能性も期待されます。

研究の目的

本研究は、臨床情報が付帯した各種腫瘍手術検体を用いて、がんによる神経障害の病態生理を明らかにし、明らかになった因子等に基づく新たな疼痛治療法の開発を行うことを目的としています。

研究の対象者

対象者は国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院において、対象臓器(現時点ですべての臓器)にがんを有する患者さんです。それぞれの対象者の治療で採取された余剰組織(がん組織、非がん組織)を利用します。対象期間は

国立がん研究センター中央病院で 2011 年 5 月 13 日～2018 年 3 月 31 日に包括的同意に基づき得られた試料を対象とします。また、がんの痛みの程度や鎮痛薬の使用量などを含めた臨床データを利用します。

研究の方法および内容

各対象臓器において、がんによる神経の障害を神経病理学的に解析します。また、がんによる神経障害に伴う発現遺伝子の解析を行い、痛みの程度などの臨床情報と組み合わせて、塩野義製薬株式会社と共同で新たな鎮痛薬のターゲットとなる候補分子を探索します。

個人情報保護に関する配慮

本研究で取り扱う資料/試料等は、対象者番号によって匿名化されています。個人情報是对応表を用いてのみ連結可能な状態となっており、対応表は、国立がん研究センターにて厳重に管理されています。そのため、個人情報が国立がん研究センターから外部にでることはありません。

照会先および研究に関する質問、意見等がある場合の連絡先

本研究で得られた情報の開示や、その他の本研究に関しましてお聞きになりたいことがございましたら、下記の連絡先まで申し出ください。また、本研究への既存の試料の利用を拒否される場合についても下記の連絡先までご連絡下さい。なお、研究時期によっては既存試料がすでに利用され、組織の利用の拒否ができない場合もございます。

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

TEL 03-3542-25111 (内線 4456) / FAX 03-3542-1886

国立研究開発法人国立がん研究センター

研究責任者：中央病院 病理・臨床検査科 森 泰昌

研究担当者：研究所 がんゲノミクス研究分野 鈴木 雅美